

事業について

三友堂病院
地域緩和ケアサポートセンター

背景

超高齢化社会の到来と共にがん患者は増加し、
病院で最期を迎えることが困難となる時代が訪れようとしている
人生の最終段階にその方が希望する場所で過ごすことが困難な現状がある

目標

がん患者さんやご家族が安心して地域で療養できるための
地域緩和ケアの推進

事業 内容

地域の医療・介護・福祉従事者との連携を強化する
在宅緩和ケアの質の向上を図る

- ・研修会や講演会
- ・在宅医療に関する実態調査
- ・緩和ケア病棟に入院した遺族へのアンケート調査
- ・在宅緩和ケアハンドブックの刊行
- ・相談場所の提供 ケア・カフェの開催
- ・地域の多職種との事例検討会
- ・どなたでも参加できる「痛み教室」の定期開催



推進されたこと

三友堂病院
地域緩和ケアサポートセンター

- ・地域の多職種（医療、看護、介護、福祉従事者）の緩和ケアやがん治療に関する知識が深まった
- ・多職種がお互いの役割を認識し、情報を共有する機会が定例化した
- ・病院と地域の多職種が連携を持つことにより、在宅医療の質が向上した
- ・がんであっても、療養したい場所で安心して過ごすことができる体制が整いはじめている

緩和ケア
とは

がんによる心と身体の苦痛をやわらげ、自分らしい生活をおくれるようにするケアです



療養場所が病院から地域に移行しはじめた結果、病人を抱える家族からの介護に関する相談や一般向け研修会の情報を求める声がセンターに寄せられている



地域で安心して療養できるよう、在宅医療に関連する医療・看護・介護・福祉の専門職と協働し、連携の構築、人材育成を継続し、さらに市民への啓発や在宅医療相談窓口の開設など総合的な仕組みづくりを行っていく

- ・医療、看護、介護、福祉従事者間の顔の見える連携づくり
- ・在宅医療に携わる多職種のスキルアップを図る
- ・地域住民の地域緩和ケアに関する啓発活動の実施
- ・在宅療養がん相談窓口の開設



山形県在宅医療推進事業

三友堂病院地域緩和ケアサポートセンターの取り組み

H21

H24

H25

H26

H27

H28

～

サポートセンター開設

山形県在宅医療推進モデル事業

目的

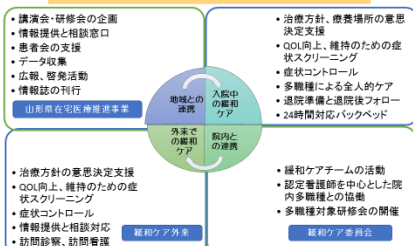
- ・在宅療養支援の強化
- ・地域の多職種とのネットワークの構築



構成

- ・緩和ケア外来
- ・緩和ケア病棟
- ・地域緩和ケア支援室

地域緩和ケアサポートセンターの役割と機能



平成28年4月作成 三友堂病院地域緩和ケアサポートセンター

地域の医療・介護・福祉従事者との連携強化

- ・教育と啓発、発信と情報共有
- ・互いの役割理解
- ・連携構築のためのしくみ作り
- ・連携上の課題抽出



現場で起こっている問題が明確化

在宅療養に携わる多職種との事例検討、研修会を行い、問題解決のためのしくみと対策を検討する

山形県在宅医療推進事業（H25.9補正により10月～）



在宅緩和ケアの質の向上を図る

- ・教育と啓発、発信と情報共有
- ・在宅医療に関する実態調査
- ・遺族アンケート
- ・在宅緩和ケアハンドブックの刊行
- ・相談場所の提供 ケアカフェ開催
- ・院外多職種との事例検討会

市民を対象に含めた啓発・相談支援体制の必要性が明確化

市民を含めた総合的な仕組みづくり

- ・市民公開講座の開催
- ・がん相談窓口の開設
- ・研修会やケアカフェ、情報交換会の継続開催